

樹木のふしぎ／サンシュユ  
みどり探訪／杉並区立郷土博物館  
緑の歳時記／Kさんのちょっと好奇心「オオイタビ」  
杉並景観録第26号～高円寺学園ほか  
特集／荻窪の三庭園めぐり  
園芸ワンポイント／シクラメンの鉢の管理



## 樹木のふしぎ

### サンシュユ (山茱萸)

早春を代表する花木の一つです。春先、公園などで黄色い花を枝いっぱいにつけます。

#### ◆どんな木ですか

ミズキ科の落葉樹。樹高は4～5m、中には10m近く育つものもあります。原産は中国や朝鮮半島で、江戸時代半ばに薬用植物として渡来しました。ささくれた荒々しい樹皮や、葉の裏の主脈のわきに生えている色の濃い毛は、見分ける時の手がかりになるでしょう。

#### ◆どんな花が咲きますか

3月頃、葉に先立って花をつけます。黄色い4弁の小さな花が20～30個ほど球形にまとまり、枝先にびっしりと咲く姿はとても華やかで、春の訪れを伝えてくれます。

#### ◆どんな実をつけますか

秋には、1～2cmの楕円形の実が赤く艶やかに熟します。昔から果肉を乾燥させたものが滋養強壯の生薬として利用されてきました。酸味、渋みがあり、果実は果実酒などに加工されることが多いようです。

#### ◆名前の由来

大陸から渡来した時の漢名「山茱萸(サンシュユ)」を音読みしています。また、春の花の様子から「ハルコガネバナ(春黄金花)」、秋の赤い実から「アキサンゴ(秋珊瑚)」などの別名があります。



実



葉(裏面)



花



長屋門

## 杉並区立郷土博物館

わが郷土・杉並の歴史や文化を展示・公開している区立郷土博物館。しかし、意外と知られていないのはその多彩なみどりです。

長屋門をくぐると立派なヒマラヤスギがそびえ、奥の藤棚では、白いフジが初夏に可憐に咲き乱れます。博物館の中を通り抜け、古民家のある裏庭に出ると、初夏に咲く白い花の様子が白い雲を思わせることから名付けられたハクウンボクがあります。

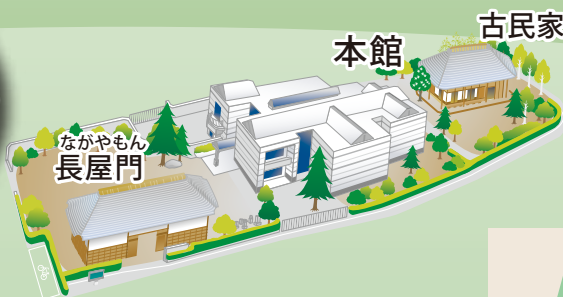
古民家前の広場に足を踏み入れると、巨樹・エノキに圧倒され、その周囲をケヤキ、コブシなどが取り囲み小さな森をつくっています。裏に回ると荻窪の地名の由来ともなったオギが植えられています。

古民家に上がり、早春にはウメ、春にはツバキ、夏にはアジサイ、晩秋にはイロハモミジを見ると、ひとときわ風情を感じます。

裏手にある善福寺川散策にあわせて、博物館のみどりにも触れてみてはいかがでしょうか。



オギ (荻)



本館 古民家

ハクシンボクハン (椿：白芯ト伴)



花

ハクウンボク (白雲木)



フジ (藤)

花



杉並区立郷土博物館  
Suginami Historical Museum

場所：大宮1-20-8 電話：3317-0841

開館時間：午前9時～午後5時 観覧料：100円 (中学生以下は無料)

休館日：毎週月曜日、毎月第3木曜日 (祝日・休日の場合は翌日)、12月28日～1月4日  
交通のご案内

京王井の頭線「永福町」駅：北口徒歩15分。または「高円寺」駅行きバスで「都立和田堀公園」下車徒歩5分。

JR中央線「高円寺」駅・東京メトロ丸ノ内線「新高円寺」駅：「永福町」行きバスで「都立和田堀公園」下車徒歩5分。



### 緑の歳時記

Kさんのちょっと好奇心

## オオイタビ

家の近くの道のコンクリート塀に、びっしりついている常緑のつる性植物。今年初めて、実のようなものがたくさんついているのに気づきました。調べてみると、名前は「オオイタビ」。クワ科イチジク属で、分布は房総半島以西～沖縄、暖地の植物で、イチジクやイヌビワの仲間です。この実のようなものは花の袋のようなものです。雌花の実の中には小さな雌花がびっしり、雄花の実の中には、雄花や退化した雌花が入っていて、雌雄別株です。どんな色に熟すか見てみたいものです。

※Kさんとは本誌編集ボランティアです。



葉のうら

果実を二つに切ったもの

# 小中一貫教育校 高円寺学園

## 杉並景観録

SUGINAMI  
Keikan-Roku



第二十六号



高円寺学園は、区内で二校目となる区立小中一貫教育校です。杉並第四小学校・杉並第八小学校・高円寺中学校の三校が統合されて、この4月に開校しました。JR高円寺駅から徒歩7分、旧高円寺中学校の校地に新校舎が建てられました。

### 建築概要

所在地：杉並区高円寺北1丁目4番

敷地面積：11,361.59㎡

建築面積：4,407.81㎡

延床面積：18,612.28㎡

校舎棟・アリーナ棟、附属棟  
(体育倉庫、駐輪場、守衛室、飼育小屋)

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造

階数：地上6階地下1階

最高高さ：28.585m

### 地域の防災拠点にも

本学園は、環状七号線から少し入った場所にあり、敷地の一部が住宅地に接しているため、これら周辺環境への配慮を行い、計画・設計されています。

・歩行者の安全に配慮し、敷地の北側と東側には2mの歩道状空地を確保

・建物の上部のセットバックやバルコニーを設けないことにより、圧迫感を軽減

・アリーナ棟の地下化により、周辺への日陰の影響に配慮  
・建物には、必要な教室、面積を確保しながら、施設全体のボリュームをコンパクトにした設計

・環状七号線から敷地内へ消防車輛等の動線を確保するほか、太陽光発電、雨水利用、防災井戸、マンホールトイレなどの設備を備え、地域の防災拠点としても機能の充実を図っています。

### 建物・敷地内の緑化

壁面や屋上、敷地外周部などを可能な限り緑化し、周辺に対して潤いのある施設づくりを行っています。

屋上は環境学習用のテラスとしても利用され、田んぼを設置してイネを育て、菜園ではヒマワリや野菜を育てています。

グラウンドにある倉庫も屋上緑化をし、学校敷地周辺には、四季を感じられるような樹木を配置し、一部はプライバシーにも配慮して、高木植栽にしています。



## 小中一貫教育の特色をいかして

小学1年生から中学3年生までが通う本学園では、義務教育9年間の学びの系統性・連続性を重視しています。

施設一体型の区立小中一貫教育校としては初めての施設となります。施設一体型とは、小学校と中学校が同じ建物内にあり、2〜3階が小学校の教室、4階に中学校の教室があります。3階には、図書・ラーニングセンターや多目的・ランチルームなどもあります。これらは、小学校と中学校の共有スペースとして児童・生徒どちらも利用することができ、小学生と中学生の自然な交流が生まれる空間となっています。



交流ホール



屋上プール



多目的・ランチルーム

また、1階玄関ホールに「交流ホール」という広い空間を設け、集会や部活、児童の学習の場などの様々な活動に広く使用できる工夫をしています。

## 三校のもつ歴史と伝統を受け継ぐ

統合前の三校の歴史を引き継ぐ本学園では、それぞれの学校が培ってきたものを大切に持ち寄り、一緒に力を合わせて育てていく心が感じられるような工夫がされています。歴史を飾るメモリアルコーナーがあるほか、階段や壁面の一部に各校のイメージカラーを使用し、校舎をやさしく彩っています。

### イメージカラー

▼杉並第四小学校：敷地の桜と校舎外壁の桜色

▼杉並第八小学校：シンボルキャラクター「はっちい〜」の黄色

▼高円寺中学校：阿波踊り部の法被の色の青色

▼高円寺中学校：シンボルツリーのクスノキの緑色



杉並第八小学校  
シンボルキャラクター  
「はっちい〜」

シンボルツリーのクスノキを用いた時計のモニュメント（高さ約2m20cm）



## 荻外荘となみすけ、ナミー デザインマンホール蓋が設置されています

区公式キャラクター「なみすけ」「ナミー」が荻外荘を紹介している「デザインマンホール蓋」が、（仮称）荻外荘公園前の道路に設置されています。荻外荘へお越しの際は、色鮮やかで可愛いマンホールを探してみてください。



## 国指定史跡 荻外荘 復原・整備へのご寄附のお願い

歴史的価値があり、建築物としても貴重な荻外荘を往時の姿に復原し、訪れる皆さんをおもてなしできる公園として整備します。

復原・整備に当たり、皆様からのご寄附をお待ちしております。

1万円以上ご寄附をいただいた方は荻外荘倶楽部の会員となり、整備の進捗状況などをお伝えする会報紙の送付や、限定イベントに招待いたします。

ご寄附は、ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」の「杉並区」のページへアクセスしてください。



ふるさとチョイス杉並区 検索



特集

歴史文化の薫り漂うまちを散策

# 荻窪の三庭園をめぐる

## ～ (仮称) 荻外荘公園・大田黒公園・角川庭園～

### (仮称) 荻外荘公園

荻外荘は、昭和戦前期に内閣総理大臣を3度務めた政治家近衛文麿の別邸です。近衛内閣時代における重要な政治会談や組閣の舞台となった場所として、平成28年3月に建物を含めて敷地全体が国の史跡に指定されました。現在、南側部分を一般開放しており、通常閉鎖している北側の建物部分は、イベント時には開放されま



昭和初期の荻外荘 (個人提供)



【所在地】 杉並区荻窪2-43

【利用時間】 午前9時～午後5時 (南側一般開放部分)

【休園日】 12月29日～1月1日



### 大田黒公園

音楽評論家の大田黒元雄氏の屋敷跡を日本庭園として整備し、昭和56年10月に開園しました。大田黒氏は47年間余り晩年まで、この地で音楽活動を続けられました。紅葉時期に開催されるライトアップが好評です。



樹齢100年を超えるイチョウ並木



【所在地】 杉並区荻窪3-33-12

【電話番号】 大田黒公園管理事務所  
☎3398-5814

【開園時間】 午前9時～午後5時  
(入園は午後4時半まで)

【休園日】 12月29日～1月1日

### 角川庭園・ 幻戯山房

～すぎなみ詩歌館～



俳人で角川書店の創設者である角川源義氏の旧邸宅を、杉並区が遺族から寄贈を受けて改修し、平成21年に開園しました。

木造2階建ての近代数寄屋造りの建物が特徴的です。庭に面して配置された部屋は開放的で明るい空間となり、茶室や四季折々の花や草木を楽しむことができます。



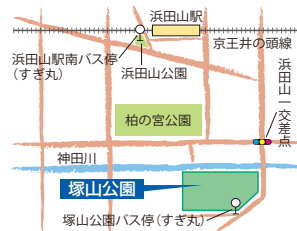
【所在地】 杉並区荻窪3-14-22

【電話番号】 6795-6855

【開園時間】 午前9時～午後5時

【休園日】 毎週水曜日、  
12月29日～1月1日

みどりに関する相談は  
**塚山公園 みどりの相談所**  
 ☎03-3302-9387  
 杉並区下高井戸5-23-12  
 毎週日曜日午前9時30分～正午、午後1時  
 ～4時30分  
 (第5日曜、年末年始を除く)



# シクラメン

サクラソウ科シクラメン属

購入した鉢の管理～2年目に向けての育て方

シクラメンには多くの種類があり、地中海沿岸などに自生しています。現在市販されているシクラメンは、ペルシカムという原種から改良された園芸品種が主です。和名はカガリビバナです



## 1. 花の置き場所 (日照と温度)

花を長く咲かせるために、昼間は15度～18度(最高25度)、夜間は7度～8度(最低5度)の温度を目安とします。午前中はガラス越しで、日光がよく当たる窓辺で管理します。

## 2. 水やり

普通鉢の場合は、葉や花がしおれ加減になったら、たつぷりと水を与えます。適度の水やりをすることで、土中の空気を入れ替え、根に酸素や栄養分が供給されます。

株の中心にかからぬように株の縁から与える。



## 3. 肥料

購入後は肥料が効いていることが多いので、しばらくしてから液肥または化成肥料を与えます。

液肥：1000倍液(1ℓの水に1mlの原液を入れる)。

化成肥料(錠剤)：鉢のサイズの号数から2を引いた数を置き肥します。

底面給水鉢の場合は、鉢底の受け皿に水を切らさないようにし、月に2回程、液肥1000倍液を水代わりに受け皿に入れます。

## 4. 花がら摘み・葉のほこりを洗い流す

花色があせてきたら、早めに花茎を抜き取り、天気の良い午前中に葉のほこりをシャワー等で洗い流し、光合成を促します。

## 5. 花立ちを良くする葉組み

姿の良かった株も中心の新芽が伸び、花蕾が脇から出てくるようになって形が崩れてきます。新しく出た葉は随時、株の中心から放射状に下げて、株の中心の新しい芽に光が充分当たるようにして、花立ちや株姿の見ばえを良くします。

### 葉組み



上部の葉を下方の葉の下へと放射状に下げて、どの葉にも光が当たるようにする。

これを繰り返し行い、株の中心に光が入るようにする。

## 6. 2年目からの管理

4月頃まで咲いていた株も、5月頃になると次第に花数が減りますが、葉は勢いよく生育し、球根に栄養を貯えるようになるので、充分日光に当て、月2～3回の液肥を施します。6月頃には成長が止まり休眠に入ります。葉は黄ばみ、数が減って来るので、水やりは鉢土の乾き具合を見て徐々に減らします。休眠に入ったら鉢の置き場所は日陰の軒下に移します。7～8月には葉はほとんど枯れ落ち、球根だけになっているか数枚残っている状態で休眠期に入ります。休眠期には水やりをしすぎないようにします。

## 7. 植え替え

9月に入り涼しくなってくると新芽と新根が活動を始めます。この頃が植え替えの時期です。一回り大きい鉢に植え替えて下さい。新葉が数を増してきたら通常の水やりと施肥をします。11月以降は、購入時と同じ管理をします。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
置き場所	室内日当り		外の日当り			外の日陰		外の日当り		室内日当り		
水やり	たつぷり							少なめ		たつぷり		
施肥	液肥または錠剤タイプ											
作業	花がらみつき、葉組み							植替え				

## 編集後記 「みどりとひと」はみどりのボランティアと協働で編集しています。

- 春一番に咲くのは黄色い花が多いとか、黄色は元気が出る色、自然が送ってくれるエールなのでしょうか。(松)
- コロナに振り回されたこの1年。毎年変わらず華やかな花を咲かせる植物たちは、そんな人間社会をどう見ているのでしょうか。(羽)
- コロナで控えていたが、久しぶりに編集委員会に出席。お元気な皆さんとの討論?は新鮮でした。(小)
- リモート編集も2号目、慣れて来たようで、今後も一部このシステムが続くのではないのでしょうか。(中)
- ある朝ベランダにハクビシンらしき糞を発見。果物を好む雑食性らしい。家回りをキレイにして様子をみます。(み)
- 今年はサンシュユの樹木の実を探してみようと思います。(三)
- 今もなお 幾星霜の 古民家かな(石)
- 今年の夏は猛暑の日が多くありへこたれましたが、植物は元気で、サルスベリは長い期間美しい花を見せてくれました。(山)
- まだ1度も郷土博物館に訪れたことがなかったので、ぜひ訪れてみたいです。(原)



みどりの新聞 みどりとひと175号 令和2年11月20日発行

編集/みどりのボランティア  
 編集・発行/杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎03-3312-2111  
 「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。http://www.city.suginami.tokyo.jp/

